

全般季節予報支援資料 1か月予報 2019年9月19日

予報期間：9月21日～10月20日 気象庁地球環境・海洋部

全般季節予報

(1) 特に注意を要する事項

北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

(2) 出現の可能性が最も大きい天候

全国的に、天気は数日の周期で変わるとでしょう。西日本では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

(3) 確率

1か月	気温(%)	1か月	降水量(%)	日照時間(%)
	低並高		少並多	少並多
北日本	10:20:70	北日本日本海側	20:40:40	30:30:40
		北日本太平洋側	20:40:40	30:30:40
東日本	10:20:70	東日本日本海側	30:40:30	30:30:40
		東日本太平洋側	30:40:30	30:30:40
西日本	10:20:70	西日本日本海側	20:40:40	30:30:40
		西日本太平洋側	10:40:50	30:30:40
沖縄・奄美	20:30:50	沖縄・奄美	20:40:40	20:40:40

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:30:60	10:20:70	20:40:40
東日本	10:20:70	10:20:70	20:40:40
西日本	10:20:70	10:20:70	20:40:40
沖縄・奄美	20:50:30	20:30:50	20:40:40

最近1週間の天候経過

最近1週間(9/12～9/18)は、北・東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、暖かい空気に覆われやすく、気温は平年を上回ったが、期間のはじめは大陸からの冷たい高気圧の影響で、北日本を中心に平年を下回る日もあった。沖縄・奄美では、熱帯低気圧や湿った空気の影響で、曇りや雨の日があった。

気温は、全国的に平年を上回った。降水量は、全国的に平年を下回った。日照時間は、北・東・西日本で平年を上回り、沖縄・奄美で平年を下回った。

予報資料の解釈

● 1か月 (9/21~10/18)

- ・ 熱帯の対流活動は、予報期間を通して、中米からインド洋西部で活発、海面水温 (SST) の低いインド洋東部からフィリピン付近では不活発な状態が続く予測。季節内変動 (MJO) の位相の東進は不明瞭。
- ・ 200hPa 流線関数は、インド洋東部からフィリピン付近の対流不活発に対応して、大陸上ではアジア南部で低気圧性循環偏差。一方、中国東北区付近から本州付近は高気圧性循環偏差の予測で、これにはアジア南部からの波束伝播が一部寄与しているとみられる。このため、本州付近では偏西風が平年より北を流れ、暖かい空気に覆われやすい。
- ・ 850hPa 流線関数は、インド洋東部からフィリピン付近の対流不活発に対応して、北インド洋から日本の南は広く高気圧性循環偏差の予測。沖縄・奄美は高気圧に覆われやすいと見込む。
- ・ 500hPa 高度は、南からの波束伝播に加え (200hPa 流線関数の記述参照)、寒帯前線ジェット気流に沿った波束伝播もあり、中国東北区から本州付近は明瞭な正偏差の予測。また、日本の西で高度が高く、西谷傾向は弱め。日本の南では亜熱帯高気圧も優勢。
- ・ 海面気圧は、本州付近は大陸から伸びる高気圧帯に覆われる予測。本州付近では偏西風が弱く、西谷傾向も平年より弱いため、低気圧の影響を受けにくく、高気圧に覆われやすい時期があると見込む。
- ・ 850hPa 気温は、大陸を中心に日本付近にも高温偏差域が広がる予測。

● 1週目 (9/21~9/27)

- ・ 500hPa 高度は、バイカル湖の東を中心に、本州付近にかけて正偏差の予測。北・東・西日本では暖かい空気に覆われやすい。一方、華南ではトラフとなり、西日本を中心に西谷の流れ。
- ・ 海面気圧は、日本付近は気圧の谷となる予測。週間予報資料では、全国的に、台風が発達すると予想されている熱帯低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい見込み。
- ・ 850hPa 気温は、本州付近は正偏差の予測。華南では上空のトラフにも対応して、低温偏差の予測で、東シナ海にも低温偏差域が広がり、沖縄・奄美は偏差 0 線付近。
- ・ 以上から、気温は、暖かい空気に覆われやすい北・東・西日本で高く、沖縄・奄美は平年並。天候は、全国的に多雨寡照傾向。

▶ 想定される天候

- ・ 全国的に、天気は数日の周期で変わるが、台風が発達すると予想されている熱帯低気圧や前線、湿った空気の影響で、平年に比べ晴れの日が少ない。

● 2週目 (9/28~10/4)

- ・ 熱帯の対流活動や、循環場の特徴は 1 か月平均とほぼ同様。
- ・ 本州付近では偏西風が平年より北を流れ、南の亜熱帯高気圧も優勢で、全国的に暖かい空気に覆われやすい。
- ・ 地上では、本州付近は大陸から伸びる高気圧帯に覆われる予測。本州付近では偏西風は弱く、西谷傾向も平年より弱いため、低気圧の影響を受けにくく、高気圧に覆われやすいと見込む。北インド洋から伸びる高気圧性循環偏差 (850hPa 流線関数を参照) に覆われる沖縄・奄美でも、南の高気圧に覆われる。
- ・ 以上から、気温は全国的に高く、北・東・西日本ではかなり高くなる見込み。天候は、全国的に少雨多照傾向。

▶ 想定される天候

- ・ 全国的に、天気は数日の周期で変わるが、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多い。

● 3～4週目 (10/5～10/18)

- ・ 200hPa 流線関数は、1 か月平均と同様、アジア南部で低気圧性循環偏差、中国東北区付近で高気圧性循環偏差の予測（ただし、高気圧性循環偏差は、2 週目ほど明瞭ではない）。500hPa 高度も沿海州付近を中心に、本州付近まで正偏差が広がる予測で、北・東・西日本は暖かい空気に覆われやすい傾向を考慮。ただし、対流活動がフィリピン付近で弱いことにも対応して、日本の南から南東海上は低気圧性循環偏差となっており、偏西風が南偏する可能性もあるため、高温の程度は割り引いて考える。
- ・ 850hPa 流線関数は、1 か月平均と同様に、北インド洋から日本の南で高気圧性循環偏差の予測。沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすい傾向を考慮。
- ・ 以上から、気温は、暖かい空気に覆われ、沖縄・奄美でも晴れて気温が上昇するため、全国的に平年並か高い見込み。天候は、沖縄・奄美で少雨多照傾向のほかは、平年程度を見込む。

▶ 想定される天候

- ・ 全国的に、天気は数日の周期で変わる。
- ・ 西日本では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多い。

気象庁ホームページ

○季節予報 https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html

○向こう1か月の天候の見通し(1か月予報の解説) <https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf1/001.pdf>
も参照してください。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。